

デーリー東北  
2023年(令和5年)7月15日(土曜日) (1)

# 「ピーポー」→「ヒュンヒュン」に

# ドクターカーの サイレン音変更

## 八戸市民病院 9月9日から 全国初、より耳に届きやすく



サイレン音が変更される「ドクターカーV3」  
14日、八戸工業大



サイレン音の変更をPRする、八戸市立市民病院の今明秀  
事業管理者(中央)と八戸工業大感性デザイン学部  
の学生  
14日、同大

全国に先駆け、「ピーポー」から「ヒュンヒュン」へ。八戸市立市民病院は9月9日の「救急の日」から、運用するドクターカーのサイレン音を「イエルプ音」に変更する。外国の緊急車両で使用されている音で、日本人にとってなじみが深い「ピーポー」音と比較して、より人の耳に届きやすいという。同病院の今明秀事業管理者は「救急車と異なる独自のサイレン音を採用することで、ドクターカーをより認識してもらえ」と意義を強調。交差点での事故リスク低減や現場到着時間の短縮により、救命率の向上を期待する。

(松橋広幸)

ドクターカーは2010年3月に同病院を拠点に運用を開始。緊急処置を要するむ8市町村を計3台でカバーしている。

その機動力を生かして地域住民の命を守る一方で、近年は一般車両の遮音性が向上し、運転者がサイレン音に気付かず、救急車よりも車高が低く視認性が落ち



デーリー東北  
動画配信  
中

るドクターカーとあやや衝突といった事例が後を絶たないという。

こうした事態を解消し、一刻を争う救命救急の出動時間を短縮して救命率の向上を図るため、同病院と八戸工業大は昨年3月、「他の緊急自動車と区別できるドクターカー独自のサイレン音」について、共同研究を始めた。

両者は学内で音響装置を用いた測定実験に着手。特にエアコンをかけた場合、ピーポー音が車内で認識しづらいのに対し、イエルプ音は幅広い世代の耳に届きやすい1〜4千ヘルツの周波数帯で、ピーポー音より音圧

が高く聞こえやすいと音が突き止めた。

緊急車両に関する法令で、救急車のサイレンはピーポー音と定められているが、ドクターカーには規定がない。ただ、国土交通省東北運輸局や青森県警など関係機関に研究結果を伝え、公道でのサイレン音変更について照会・承諾され、全国で初めてイエルプ音が使用できることになった。14日は八戸工業大メディアセンターでサイレン音の発表会が開かれ、9月から使用する「ヒュンヒュン」というイエルプ音を披露。同大感性デザイン学部の学生4人が制作した、サイレン音の変更をPRするポスターもお披露目された。全国ドクターカー協議会の代表理事も務める今明秀事業管理者は「八戸での取り組みをきっかけに、今後は全国にイエルプ音を広げたい」と展望を語った。